

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和元年 5月24日

事業所名 児童デイサービスぱいかじ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7				
	2	職員の配置数は適切である	7			規定以上の職員を配置し対処している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている			7		現在はバリアフリー化する必要のある児童の在籍が無いために行う必要が無いと考えておりますが、今後必要な児童の受け入れが見込まれる場合は早急に対応する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		6	1		現在は実施しているとは言えない。今後は定期ミーティングを開催し業務改善に努める。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		7			今回がアンケート形式のヒヤリングが初めてだった為今後は活用し業務改善に努める。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7				今後もHPを活用し保護者や外部からも問題点を可視化し意見等を聞き積極的に改善に努める。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			7		現在は外部評価を行っていないが、今後は評価頂く機会を設けたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している		4	3		現在までは業務を運営するにあたり、研修に参加させる事が厳しかったが現在は人員が増え積極的に参加させる予定である。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7			アセスメントに関しては特に意識し対応しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している			7		ヒヤリングを中心にアセスメントは行っていますが、今後はアセスメントシートを作成しどの職員が実施しても適切なアセスメントを実施できる環境を整えます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている		6	1		職員間のコミュニケーションを密に取り、それぞれにあったプログラムを立案しているが特定の職員に偏った様に感じる。全職員への横展開の定期ミーティングを開催する。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			動の療育、静の療育のバランスを意識している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7			短時間でできる事や長期休暇等でできる事を考え支援している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		1	6		現在は明確な役割分担を行う事は少なかったため、今後は支援開始前の打ち合わせを行う様にします。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		7			必要な事があれば情報共有は行っているが、必ず実施しているわけではないので、遅くとも次回開所日には実施する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7				
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	7				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	7			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		7		現在は医療的ケアが必要な児童の受け入れは無いが今後受け入れがある際は必ず実施する。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		7		対象児なし。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		7		現在は機会が無いために今後は積極的に研修等に参加する機会を設ける。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7		同一法人の経営する保育園での交流活動。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	7			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		口頭での伝達を主に実施。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		7		ペアレントトレーニング等の研修にも積極的に参加し保護者に対する支援の強化を図る。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		7		保護者会を開催した事が無いために今後は開催を保護者から要望があれば開催したい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			SNSを活用し子ども達の様子を保護者が見れるように発信している。
	35	個人情報に十分注意している	7			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		7		地域との交流は特定の児童はあるが全員が参加した実績は無いので今後は計画したい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7				
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7				
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		7			定期的を実施しているが、新規雇用職員へは未実施の為、早急に開催する。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7				
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7			保護者と話し個別対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		7			口頭での情報共有は行っているが事例集の作成は今後徹底していく。